

- 問1 九州南部の鹿児島県などに広がる火山灰層からなる台地において、古くから水田稲作があまり行われず、サツマイモや飼料用トウモロコシなどの畑作、および畜産業が発展した理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。
 2. 火山灰に含まれる栄養分が多すぎるため、稲が成長しすぎて倒伏してしまうため。
 3. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているため。
 4. 土壌が非常に硬い岩盤状になっており、農作物の根が深く張ることができないため。
- 問2 九州地方南部に位置する宮崎県の農業的特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。農産物産出額の内訳や気候条件に着目して答えなさい。 (2023年 長崎県公立入試 類似)
1. 冷涼な気候を利用した「抑制栽培」が盛んで、夏から秋にかけてキャベツやレタスを都市部へ出荷している。
 2. 温暖な気候を活かした畜産業が非常に盛んであり、県の農産物産出額のうち「畜産」が占める割合が約半分に達している。
 3. 瀬戸内の温暖な気候を活かし、ブドウやモモなどの「果樹」の産出額が全国でもトップクラスである。
 4. 広大な平野を活用した稲作が中心であり、農産物産出額の大部分を「米」が占めている。
- 問3 九州地方の各県の産業を比較した統計資料において、豚の飼育頭数やきゅうりの生産量、製造品出荷額が一定の規模を有し、かつ「地熱発電量」が約823百万kWhと非常に多く、全国的にも上位に位置する県はどこか、名称を答えなさい。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 鹿児島県
 2. 宮崎県
 3. 福岡県
 4. 大分県
- 問4 鹿児島市中心部の1983年の状況と2004年の状況を比較した際、地図上の表現から読み取れる土地利用の変化として最も適切なものはどれか。 (2020年 群馬県公立入試 類似)
1. 美術館の南側に、開いた本の形をした地図記号で表される図書館が新たに設置された。
 2. 市街地中心部に位置する城山が削られ、大規模な住宅団地として再開発された。
 3. 駅の西側に位置する高等学校の敷地が大幅に拡大され、新たな校舎が建設された。
 4. 沿岸部において埋め立てが進んだが、港湾施設の整備により海岸線の形状に変化は見られない。
- 問5 1960年代の北九州市は、重化学工業の発展に伴って深刻な環境問題に直面しました。この状況を克服し、現在は環境モデル都市として知られるようになるまでに行われた取り組みの説明として、最も適切なものはどれですか。 (2017年 長野県公立入試 類似)
1. 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。
 2. 全ての工場を市外へ移転させることで、工業都市から観光都市への全面的な転換を図った。
 3. 地震や津波などの自然災害に備え、沿岸部の工場地帯を解体して内陸部へ居住区を移した。
 4. 二酸化炭素の排出を抑えるため、太陽光発電などの再生可能エネルギーのみを全産業の動力とした。
- 問6 九州地方の製造業出荷額において、1980年には鉄鋼や化学が上位を占めていましたが、2000年には電気機械が首位となり、輸送用機械も上位に食い込むようになりました。このように、高度な技術を用いて部品を組み立てることで製品を生産する産業を何と呼びますか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)
1. 加工組立型産業
 2. 知識集約型公共産業
 3. 基礎素材型産業
 4. 生活関連型産業
- 問7 鹿児島県などに広がるシラス台地において、古くから稲作よりも畑作や畜産が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明はどれですか。 (2017年 大分県公立入試 類似)
1. 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため
 2. 標高が高く年間を通じて気温が低いため、稲の成長が著しく遅れるため
 3. 土壌に含まれる塩分濃度が高く、稲の根が枯れてしまうため
 4. 河川から運ばれた土砂が固く堆積しており、田を耕すことができないため
- 問8 九州地方の農業について、茶の生産状況を説明した文として正しいものはどれですか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
1. 鹿児島県は、静岡県に次いで国内で2番目に高い茶の生産量を誇っている。
 2. 九州地方では茶の生産は行われておらず、近畿地方が全国の生産の大部分を占めている。
 3. 福岡県は、三重県や京都府を抑えて国内で最も茶の生産量が多い。
 4. 宮崎県は、九州地方の中で最も茶の生産割合が高い県である。
- 問9 九州地方の長崎県は、内陸県である群馬県と比較して、小学校1校あたりの児童数が少ないという特徴があります。これは、長崎県が持つどのような地理的条件が影響していると考えられますか。適切な記述を選択してください。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
1. 平地が少なく急峻な山岳地帯が多いため、大規模な校舎を建てることができない。
 2. 多数の有人離島が存在し、それぞれの島に独立した教育環境を整備する必要がある。
 3. 造船業や水産業が盛んな地域では、職住近接の考えから小規模な学校が好まれる。
 4. 他県からの転入者が多いため、将来の人口増加を見越してあらかじめ多くの学校を設置している。
- 問10 九州地方にある4つの県を比較した資料において、以下の特徴を持つ県の地理的説明として最も適切なものはどれか。なお、この県は九州の北東部に位置し、地熱発電量が約823百万kWhに達しているものとする。 (2024年 愛知県公立入試 類似)
1. 温暖な気候を利用したピーマンやマンゴーの促成栽培が盛んで、平野部ではビニールハウスが多く見られる。
 2. 広大なシラス台地が広がり、豚や肉用若鶏（ブロイラー）の飼育頭数が全国1位である。
 3. 火山による恩恵を活かした地熱発電が盛んであり、きゅうりなどの園芸農業や豚の飼育も行われている。
 4. 北九州工業地帯から続く工業集積があり、自動車産業やIC（集積回路）の生産が非常に盛んである。
- 問11 九州地方の種子島において、宇宙センターの建設やサトウキビの生産といった産業が発達した要因となる、この島の地形的・気候的な背景として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
1. 銘柄米の生産に適した広大な平野と、一年を通じて冷涼な気候が維持されていたため。
 2. 島全体に平坦な丘陵が広がっており、大規模な施設の建設や農地の確保が比較的容易であったため。
 3. リアス海岸が発達しており、大型船によるロケット機材の搬入や、寒冷な気候を活かした漁業が盛んであったため。
 4. 標高の高い険しい山岳地帯が島の中央にそびえ、宇宙観測に適した気流の安定した環境があったため。
- 問12 1972年の本土復帰以降における、沖縄県の経済状況の変化を説明した記述として最も適切なものはどれですか。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
1. 県民総所得に占める基地関連収入の割合は、復帰直後の約30%から低下し、近年では5%前後となっているが、県民総所得の総額自体は増加している。
 2. 基地関連収入が県民総所得に占める割合は、復帰直後から一貫して5%前後で推移しており、県民総所得の総額に大きな変化は見られない。
 3. 本土復帰直後の県民総所得は約5兆円であったが、近年は基地関連収入の割合が約30%まで上昇したことで、経済規模が縮小している。
 4. 観光業の衰退により県民総所得は減少傾向にあるが、基地関連収入の割合が5.7%から30.4%へと急増したことで経済が支えられている。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。	シラス台地を構成する火山灰や軽石の層は、隙間が多くて水を通しやすい（水はけが良い）という特徴があります。この性質は、常に水を張っておく必要がある水田（稲作）には不利に働きます。そのため、水分が少なくても育つ作物や、広大な土地を利用した畜産業がこの地域の主な産業となりました。近年では、灌漑施設の整備により、一部で野菜栽培なども行われています。
問2	答え 2 温暖な気候を活かした畜産業が非常に盛んであり、県の農産物産出額のうち「畜産」が占める割合が約半分に達している。	宮崎県は、鹿児島県とともに九州南部（南九州）を代表する畜産地帯です。肉用牛、豚、鶏などの飼育が非常に盛んで、農産物産出額における畜産の割合が極めて高いのが特徴です。また、冬でも温暖な気候を利用したビニールハウスによる野菜の「促成栽培」も盛んですが、米を中心とするのは福井県、果樹が目立つのは岡山県、冷涼な気候を活かした抑制栽培は岩手県などの東北や長野県の特徴であるため、これらと区別する必要があります。
問3	答え 4 大分県	九州地方は全体として火山が多く地熱資源が豊富ですが、その中でも北東部に位置する大分県は、国内最大級の地熱発電所である八丁原発電所などを有し、地熱発電量が全国トップクラスとなっています。また、統計資料において、鹿児島県や宮崎県ほどではないものの豚の飼育が行われており、農業・工業・エネルギー産業がバランスよく展開されているのが特徴です。
問4	答え 1 美術館の南側に、開いた本の形をした地図記号で表される図書館が新たに設置された。	1983年時点では見られなかった「開いた本」の形をした地図記号が、2004年の状況では美術館の南側に追加されており、公共施設の整備が進んだことがわかります。選択肢にある城山の削平や駅西側の高校の建設については、この期間の主要な変化としては確認されません。
問5	答え 1 市民、企業、行政が互いに協力し合い、汚染物質の排出規制や技術開発によって改善を進めた。	かつて北九州市は「七色の煙」と呼ばれるほどの大気汚染や、洞海湾の深刻な水質汚濁に悩まされていました。この状況に対し、まずは子どもの健康を心配した市民（母親たち）が立ち上がり、企業や行政に働きかけました。その結果、三者が一体となって対策を講じる体制が整い、厳しい排出基準の策定や企業の技術革新が進んだことで、環境問題の克服に成功しました。この経験は現在、国際的な環境協力にも活かされています。
問6	答え 1 加工組立型産業	電気機械や自動車（輸送用機械）のように、多くの部品を組み合わせで最終製品を作る産業を加工組立型産業と呼びます。九州では、高速道路網の整備や豊富な水資源、労働力を背景にこれらの工場が増加しました。一方、原材料を加工して他の産業の土台となる素材を作る鉄鋼や化学などの産業は基礎素材型産業と呼ばれ、以前に比べて出荷額に占める割合は低下しています。
問7	答え 1 非常に水はけが良く、水田に必要な水を蓄えておくことが困難なため	シラスは火山の噴出物からなる粒子の粗い土壌であり、水分を保持しにくい「水はけが良すぎる」という性質を持っています。常に一定の水を張っておく必要がある水田（稲作）には不向きであったため、代わりに乾燥に強いサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した肉用牛や豚などの畜産が発展しました。
問8	答え 1 鹿児島県は、静岡県に次いで国内で2番目に高い茶の生産量を誇っている。	日本の茶の生産は静岡県と鹿児島県の2県が突出しており、鹿児島県は全国第2位のシェアを誇ります。九州地方には宮崎県や福岡県といった産地もありますが、生産量において最も多いのは鹿児島県です。近畿地方の京都府なども茶の産地として有名（宇治茶など）ですが、生産量ベースでは鹿児島県や静岡県が上位を占めるのが現状です。
問9	答え 2 多数の有人離島が存在し、それぞれの島に独立した教育環境を整備する必要がある。	離島を多く抱える地域では、島をまたいで通学が困難なため、児童数が少ない島であっても小学校を設置する必要があります。このため、県全体の児童数を学校数で割った「1校あたりの児童数」は、都市部や平野部が多い県に比べて少なくなります。これは、地理的制約の中で教育の機会均等を確保するための社会基盤（インフラ）整備のあり方を示しています。
問10	答え 3 火山による恩恵を活かした地熱発電が盛んであり、きゅうりなどの園芸農業や豚の飼育も行われている。	大分県は別府温泉や由布院温泉に代表されるように火山活動による熱源が豊富であり、それを利用した地熱発電は県を象徴するクリーンエネルギーとなっています。選択肢にあるシラス台地と畜産の記述は鹿児島県、促成栽培の記述は宮崎県、大規模な工業集積の記述は福岡県や周辺地域の解説であり、統計資料における「地熱発電量」の多さが大分県を特定する最大の決め手となります。
問11	答え 2 島全体に平坦な丘陵が広がっており、大規模な施設の建設や農地の確保が比較的容易であったため。	種子島は隣接する屋久島（急峻な山岳島）とは対照的に、島全域にわたって平坦な丘陵が広がっているという地形的特徴があります。この平坦な土地が、広大な敷地を必要とする宇宙センターの建設や、機械化が求められるサトウキビ栽培に適していました。また、サトウキビは亜熱帯から熱帯にかけて栽培される作物であり、九州南部の温暖な気候条件も重なって主要産業となっています。
問12	答え 1 県民総所得に占める基地関連収入の割合は、復帰直後の約30%から低下し、近年では5%前後となっているが、県民総所得の総額自体は増加している。	沖縄県が本土復帰した1972年当時、県民総所得に占める基地関連収入の割合は30.4%と非常に高く、基地に依存する経済構造となっていました。しかし、その後の観光業の発展や産業振興により、県民総所得の総額は1972年の約5,013億円から2014年には約4兆2,744億円へと大きく成長しました。この経済規模の拡大に伴い、相対的に基地関連収入が占める割合は低下し、近年では5.7%程度となっています。